

り、いつしか櫻野の里と稱すとぞ、今の氏家驛はまた天正年中より驛場となりし所にて、栗ヶ島増淵内御堂古宿等の四ヶ村を合て一驛とせり、今の古宿と云所ぞ、もとの氏家郷なる、また今氏家新田と云所あれども、是は元和年中の新開とあれば混すべからず、さて新田氏家の兩郷は、和名抄には芳賀郡なれど、中昔より鹽谷郡に屬したり、磐上驛は今の石上村なり、黒川驛も黒川村にて、ともに那須郡なり、都て足利三嶋田郡、衣川、新田、磐上、黒川、それより奥の白川驛驛の間七、八里許づゝあり、

〔吾妻鏡九〕文治五年七月二十五日癸未、二品著御于下野國古多橋驛、先御奉幣宇津宮、有御立願、〔太平記三十〕薩埵山合戰事

宇都宮ハ、藥師寺次郎左衛門入道元可ガ勸ニ依テ兼テヨリ將軍ニ志ヲ存ケレバ、○中十二月○應二十五年、日宇都宮ヲ立チテ、薩埵山ヘゾ急ケル、○中都合其勢千五百騎、十六日午刻ニ下野國天命宿ニ打出タリ、

建置沿革

〔日本國郡沿革考三〕東山道下野 上國管九郡、千三百六十五村、

河内 二百二村 芳賀 百九十二村 鹽谷 百九十二村 那須 二百九十八村、古 足利 四十

六村 築田 二十八村 延喜式等作梁田 安蘇 六十四村 都賀 三百七十八村 寒川 十三村、拾芥抄作寒河

〔日本地誌提要二〕下野沿革 古へ國府ヲ都賀郡ニ置、今ノ國府天慶中、藤原秀郷州ノ介ヲ以テ、

平將門ヲ誅ス、功ヲ以テ世州ノ守介ニ任ジ、押領使ヲ兼テ、小山城郡賀ニ居ル、十二世朝政、州ノ

望族宇都宮朝綱、那須宗隆等ト俱ニ源賴朝ニ從テ功アリ、宗隆那須一郡ヲ賜ヒ、朝綱子孫宇都

宮ニ居リ、小山氏ト相代テ州守ニ任ジ、紀清兩黨皆其下ニ隸ス、朝政ノ弟宗政、長沼郡芳賀ニ城キ、

子孫之ニ居テ、長沼ト稱ス、源義家ノ孫義康、足利郡ニ食ミ、八世尊氏ニ至ル、元弘ノ末、尊氏兵ヲ

率テ西上、官軍ニ降り、京師ヲ復ス、朝綱八世ノ孫公綱、建武中、勤王本州守護ヲ賜フ、既ニシテ公